

## 研究所だより

### モニター会議概要

当研究所では、現地の実態を的確に把握し業務推進に活かすため、新進気鋭の農業者に現地モニターを委嘱し、さまざまなもの意見を伺つておりました。

昨年度につづき今年度も平成二十九年十一月一日に札幌市内にて開催、現地モニターの方々と意見交換を行つことができました。

会議終了後に北海道大学の坂爪浩史教授に「農畜産物食料市場のニユーウェーブ」との題目で講演をしていただきました。  
以下その会議の概要を紹介いたします。

現地モニター（敬称略・五十音順）	一般社団法人 北海道地域農業研究所
・美瑛町 内田達也 (JAびえい販売部生産振興課)	・副理事長 飯澤理一郎
・天塩町 宇野剛司 (酪農経営)	・専務理事 伊藤則明
・新篠津村 大塚早苗 (有機野菜・畑作・稻作経営)	・常務理事 入江千晴
・美唄市 貞広樹良 (稻作・畑作・野菜経営)	・顧問 黒澤不二男
・京極町 高木智美 (畑作経営)	※北海道大学 大学院農学研究院 教授 坂爪浩史
・名寄市 中野康則 (稻作・施設野菜経営)	

飯澤 皆さうにこなには。開会に当たつて、一言お挨拶申し上げます。  
昨年も申し上げましたが、私たちの研

究所では、どういった研究をすべきかといつことが大きな課題です。全国に通ずる原理・原則的な研究も大事なのですが、

私たちがやるべきことは、「地域、農家のことを、JAの方々に役立つような研究」ということではないかと思います。その



左：伊藤専務 右：飯澤所長

たためには、じゃや農業でがんばつてねりれる方々のじ意見を踏まえながらやつていかなければなりなこと思いました、「モニター会議」を再開いたしました。

私事になりますけれども、土曜日に「米—→グランプリ」とあります。まして、私も審査委員を仰せつかりましたので行って参りました。私は山形県の生まれで、「北海道米なんて本当に美味しけんな」這一時期までは思っていたのですが、「ぬめびりか」はむちりん、「ふわふわ」と「ななつぼし」などわくわく良いお米になりました。今回も、蘭越で作った「ぬめびりか」が新潟の米や山形の米、岐阜の米を押しこけて、グランプリに輝いたんです。私にとつ

ためには、じゃや農業でがんばつてねりれる方々のじ意見を踏まえながらやつていかなければなりなこと思いました。

ても非常に嬉しかったありました。

これはおそらく、「品種改良一般も非常

に大事ですが、その改良した品種を蘭越に令ひ形、それぞの地域に令ひ形で育てねどこのひとの弛まぬ研究の成果だろうと思うんです。同じ品種でも場所によつて気象や土地条件が違いますから、

このよつた研究の成果だと私は思っています。私たちの研究所もこのよつた研究をやつていかなければなりない」と、肝に銘じてつる次第であります。本日はよろしくお願ひします。

中野 私は今四五歳ですが、二六歳の時に新規就農しました。名寄の夏井さんとのことで四年間修業をしました。平成一五年からコメとトマト、ミートマトを作つてこます。稻作は一〇㌶あります。ミートマトは、半分は農協に出荷して、半分はトマトジュースを作つて、全国で売つてこます。

去年は、北洋銀行主催の、香港の「city'super（シティスーパー）」で五月に行われた北海道物産展に参加させていただきました。香港の人は富裕層も多く、北海道「ブランド」をものすごく高く評価をしていただけてうれしいです。うちのトマトジュースも、日本で売る値段の倍の値段で卖つているんですけども、けつこう買つていただきました。北海道ブリンドは強じなところを感じた次第です。

名寄市では、農業体験をしたいといつねて、少し昨年とは変わったといふなどをお話しただけたらと思ひます

台湾区の人を民泊で受け入れる取り組みを進めています。市内でも五軒ほど農家

民泊を始めました。僕も来年、ゲストルームを建てて、そういう人達を受け入れていきたいと考えています。

**津島** 私の地元では、道営の土地改良事業（パワーアップ事業）が最終年を迎えてますが、非常にありがたい事業です。

今年は春から天候が順調で、おおむね平日が晴れ、土日は雨という状況が五ヶ月のほぼ三ヶ月間続いたので、あらゆる作物が順調でした。八月に入つてから低温に見舞われたり、雨が続いたりして崩れたんですが、先の天候の貯金が効いていて全ての作物が豊作です。特に、土地改良したところは、質が良く長雨の影響もなく、長いスパンで見ると出来のブレ幅が少なく生産量が安定していると感じています。

約一〇〇haの経営で七品目を作っています。去年は作柄が悪かったんですが、ニンジンの価格が非常に高くて、経営全

体でプラスだったんです。今年は野菜類の価格が低迷して、収入の柱にはなり得ない状況ですが、畑作物がよかつたといふことで、いろんな作物を作っていたほうが経営としては安定するんだろうな、土地改良をして土地基盤をしっかりとすれば、通常の作物は安定して作れるのかな、ということを強く感じた年でした。

先ほど民泊の話がありました、修学旅行生の受け入れも、十勝全体で二、〇〇〇人を受け入れています。うちでも五回ほど、二四～五人の高校生を受け入れました。ほかに春先には「温泉に泊まって農業体験だけをしたい」という高校がありまして、五〇名ほど受け入れました。終わつた後に説明を聞くと、修学旅行は毎年入札でエージェントが変わつたり、行き先も生徒ではなくて先生が決めるところもあるって、先生が毎年北海道に来るのもいかがなものかということになります。今年は沖縄に行くだとか、今來じた高校が入札でエージェントが変わつて来

年は来る予定がないとか、そういう状況になっています。

**高木** 今年は、根菜類や豆類など全般的に良かつたです。

ニンジンはどうしても豊作だったんで、ようして農協の共選施設は八月の終わりから九月までものすごく溢れてしまいまして。出荷調整も入りまして、三五〇kgまでが一しなんですけれども、三〇〇kgまで落として出荷して欲しい、レサイズも切ることでした。でも、話を聞いてみると、ニンジンは七〇〇キロくらい入るハーフコンテナに入れて出荷するのですが、農家ごとに基数制限したうえで、あとは農家さんの個人の判断で、レサイズを切るとか、二一サイズもあそこまで切らなきゃ入らないとか調整をする、「こうものを、値段の高いところを狙つて出荷したいなら考えて」とこうやり方だったんです。道南の方では「サイズの指定で切つてくれ」っていう形だったん

されども、よつて農協では「個人で考えて判断して」というやり方だったのです。

だから、鋤き込みするのも考えてやつこと。消費者団体の日があるので、畑にある状態で、収穫する前に鋤き込みとは絶対に言わないのですが、うちはぜひしても鋤き込みをしなきゃいけない状況になってしまった。

あと、規格外の廃棄する二エンジンを使って、染め物専門商社とコラボして、二エンジンTシャツをクラウドファンディングで販売しています。農業に関して知識がない商社の人と、私たちの方とでちょっと温度差がありまして、まだ、皆さんに知らせてはいりません。もう販売にはなっているし、クラウドファンディングも開始しているんです。

黒澤　ファンディングの目標額はどういったですか？



貞広樹良さん

高木　田標額は100万円で、募集期間は一月までです。まだ四分の一くらいにしかなっていないと思います。四月から本格的にその枚数に合わせて、こちらも規格外二エンジンを出荷して染め物にするという感じです。農水省の「農業女子プロジェクト」の中でやっています。

貞広　私のところも、今年はどの作物も本当に良かつたと思います。六〇haで、コメ、ムギ、ダイズ、ソバと野菜も作っています。作柄に加えて、特に、コメの価格が高いのがすごく経営的にも助かった年かなと思っています。

#### 天気の影響

貞広　私のところも、今年はどの作物も本当に良かつたと思います。六〇haで、コメ、ムギ、ダイズ、ソバと野菜も作っています。作柄に加えて、特に、コメの価格が高いのがすごく経営的にも助かった年かなと思っています。

貞広　うちは家族経営で、叔父にも頼んでいますが、五人で作業を回しています。両親も高齢になってきてるので、四月から若見沢農業高校の新卒者を社員として雇用することになってしまって、とても期待しているところです。

大塚　うちは一八haの面積で、その半分が有機の圃場なんです。一二一品目の有機野菜を作っています。

大塚　うちは一八haの面積で、その半分が有機の圃場なんです。一二一品目の有機野菜を作っています。

黒澤　ファンディングの目標額はどういったですか？

貞広　うちは一八haの面積で、その半分が有機の圃場なんです。一二一品目の有機野菜を作っています。

貞広　うちは一八haの面積で、その半分が有機の圃場なんです。一二一品目の有機野菜を作っています。

たことになりますとになり、北海道内の全店舗でうちの野菜をコーナーで展開していくざつてになります。むかしは店ではうちの農場のビデオがずーっと流れています、すじ宣伝効果もありますし、道内でもなく店舗があるので、ありがたいことだと思っています。反面、うちの野菜はすべて契約で売っていますので、一社に極端に売り上げが偏ってしまうところも不安だと思います。元々はB社にいきまで応援してもらつた農家なので、B社に申し訳なこと思つてもうして、難しさなんあとう感じですね。

A社では有機野菜の売り上げを青果コーナー全体の一%までにするとこう田標でやつていまして、今、A社北海道ではうちの有機野菜を置いていたところで、一・数%といつて今までいたそうですね。

黒澤　全体でもそんなに低いのですか。

**大塚** むりなんですね。でもそもそも有機って全体で〇・一%しかないから、それ割れたらすぐ高い方だと思うんですね。全国のA社の店舗では、有機野菜コーナーから展開できない状況で、A社に出せるだけの有機野菜がないんですね。日本の中で北海道しかうまくこなしている現状らしいです。

昨年まで、うちは契約栽培ではありますからも、予定の量より多かった場合は、

その緩衝剤として、こいつかの直売所スタイルのところに出していたんですね。ただ、そいつのところは全部委託販売なので、売れた分しかお金が入ってこない。ですから、出荷した分が全部お金になつていただけではなかつたのです。それが、今年からA社と取引するところ、全部買ひ取つてくれるのでもなくお金でできます。そこが非常にありがたいですね。

それと、規格外野菜の話も出ていましが、規格外の二エンジンを有機の惣菜として取り扱いたいとか大根は切り干し大

根を加工して販売するなど、上から下まで全部をお金に変える仕組みづくりが、だんだん整ってきたなとうつ感じます。

**内田** 私の担当は、馬鈴しょとタマネギがメインで、生産から販売までの業務を行つています。今年で九年目で、JA全体の知識はありませんが、JAびえいではいろんな事業に取り組んでいます。

今年の状況としましては、小麦が去年の雪の影響で収量が少なかつたんです。アスパラも天候の影響で良くなかったのですが、畑作全般では作柄が良かつたので、農協と生産者の経営状況も良かつた

のではないかと思つて います。

**内田達也さん**  
JAびえい管内では、畑作、野菜、稻作、酪農



と多品目にわたり生産しています。最近、メニアでも多く取り上げられている」ともありまして、千歳空港の「美瑛選果」のコーナーも好評です。美瑛の本店も引き続き盛況で、最近「小麦工房」というパンの工房ができ、東京の「VIRON (ヴィロン)」と並ぶ有名なパン屋さんと共にでやっています。ゆめちから100%の食パンが売っています。

黒澤 ほかにも牛乳は「びえいミルク」であつたり、野菜についてトマトなどが基幹品目に育つてゐるし、コメも良質米という評価で全体的に元気がいいんだなどいろいろ印象があります。

先般、地域農研の調査で100戸くらいの面積を二戸共同でやつてゐる美瑛町の「柏台生産組合」に行つて話を聞きましたら、基幹畑作三品に絞り込んでやつてゐると。さきほど津島さんから大型畑作経営でも品目分散する」というスクローリングとなり、それが非常に有効だといつお

話を伺つたので、柏台で聞いた話とは少し違つた。柏台はかつて野菜をかなり戦略品目で入れてゐたことがあるんです。が、野菜は早々と撤退したんですね。今はてん菜関連の調査で行つたんですね。が、てん菜生産でも非常に頑張つてゐるし、育苗の受託なんかもやっていて、かなり地域で役割を果たしてゐるところでした。

びえい農協の組合長は熊谷さんといつて、ファームイン・観光農業の北海道における先駆者です。私ども地域農研が美瑛町農協の振興計画をお手伝いした時は、「観光農業はあまりやるべきでない」という意見が主流だったんですね。その中で、当時の理事だった熊谷さんが、「もう少し力を入れて取り組んでみるのではないか」というようなことを仰つていただのが印象的でした。

続いて宇野さん、昨年は欠席されていましたので少し長めでも構いません。自己紹介をお願いします。

宇野 「わは酪農で、私も三代目です。十一年前に就農しましてそれから父の跡を継いでやっています。

もともとの父は、舍飼いだったのですが、私の代で、大学時代に学んだニュージーランドの放牧酪農をはじめました。

進学した酪農学園大学で荒木和秋先生に出会い、先生に「わは周りに放牧地が五〇haくらいある」という話をしたら「絶対やつた方がいい」と勧めていただき、ニュージーランド式の放牧酪農を勉強して、実際に取り入れていて」と思いました。

ニュージーランドの放牧酪農は「季節分娩」というやり方で、春に一斉に出産させるんですね。そうすると出産前の約二ヵ月間、牛を休ませるために乳を搾らないんです、その期間に人も搾乳作業から解放されるから休みが取れるというやり方です。なおかつ夏はずっと放牧しているので搾乳作業のみが人間の作業になつ



宇野剛司さん

てへるん  
です。  
僕も日  
本で同じ  
このやり  
方で、酪  
農界で稼いでみようと思つて、実家に戻つて、  
後を継いでやり始めたなんですよ。

はじめは父とのいろいろな考え方の違い  
があったので、かなり衝突しながら無理  
やうとう部分もあるんですけど、進めて  
きまして、年数を重ねてじっくりに結果  
が出てきて、今では父も認めてくれたと  
いう経緯です。

やるからには化学肥料や農薬を使わな  
いとか、「牛ひぐつ」にこだわつてやり  
たこと思つてたので、就農当時からそ  
れは一貫して続けております。父の代で  
も肥料をたくさんやつしてはな  
いですが、肥料をやらなくなつた途端に  
畑がかなり荒れたところですか、力がな  
くなつて見えるところの感じがしました。

それで北海道にも「牛ひぐつは使つてない」  
といふところが何か所かあつたのですが  
を見に行き、将来的には僕もいになりた  
いところの感じから続けていたのかに徐々  
に土も良くなつてきました。五年、六年  
目あたりから歩じてこられたときの土の感触  
がもつ肌に感じるくらいになつてきました。

そのあと牛も草をおなかいつぱい食  
べるようになつて、穀物を食べなくなつ  
てきました。僕としては、できれば穀物  
を与えて、エネルギーとかタンパクのバ  
ランスを取つて受胎率を上げたいと考え  
てつたのですが、牛は青草でおなかいつ  
ぱいで、穀物は食べてくれないんですね。  
いい牛、いい草を作れば、牛には草が一  
番のじうさうになるんだなとこういふとを  
すく感じました。

それで、牛がこれほど喜んで草を食べ  
て出した牛乳であれば、いろんな方に飲  
んでいただきたいという感じがだんだん  
強くなつてきました。今から五年前に自

社商品の発売となりました。「トロケッ  
テ・ウーハ」というスイーツです。

どんな商品を作りうかと考えたときに、  
乳製品には牛乳やヨーグルト、アイス、  
チーズだとじろじろとありますが、こ  
れらはいろいろなといふ販売されてい  
るので、同じ商品を作つても難しげだろ  
うなところ考えがありました。ミルク  
ジャムで成功してた同じゼミの先輩に、  
「オリジナルの商品が何かあれば一番強  
いよ」という話をお聞きしました。何とか「草  
で搾る牛乳の味」を伝えたことこの思い  
があり、「じゃあ何が牛乳の味を伝える  
のに一番いいのかな」と考えたときに、  
昔から父が僕に食べさせてくれて大好き  
だった「牛乳豆腐」が思い浮かびました。  
酪農家で搾つてすぐに酢を加えて作るの  
ですが、牛乳の甘さや美味しさが一番よ  
くわかる食べ物で、それを商品化できな  
いかと思ったのです。

ただ牛乳豆腐はぼひとじ流通していな

ぐれ、あつたどしども当時見たものは水分を抜いて冷凍して流通しているものだつたので味がかなり落ちてしまつて。搾つたときの牛乳の美味しさそのものをどう維持して流通させるかといつては、年に何年間か苦戦をしました。

牛乳を酢で固めてしまつと酸の味も残りますし、酢を入れて置いておくとどんどん味が変化してしまつんですね。それで、ゼラチンですか寒天、プリンのような作り方もいろいろ試したんですが、寒天でもゼラチンでもどちらとも味が出てしまつんですね。それに何か味を多少加えてしまえばゼラチンや寒天の味は分からなくなりますけれども、牛乳だけの味を残すには、どうしても邪魔なんですね。

そんな時に知り合ひの豆腐屋さんに「一ガリだつたら他の味が出ない」という話を伺ひまして、植物性のタンパクが固まるんだつたら乳成分のタンパクも固まるだつたら、一ガリを使ってやってみました。やうしたり、牛乳が僕の思うよ

うな味になつて固まつてくれたといひ緯があつてこの商品が出来上りました。

黒澤　私がはじめて宇野さんと知り合つたのは、六次産業化のセミナーだったのですが、大変起業志向が強く、個別

経営を株式会社化するとか、放牧酪農という技術方式もそうですが、経営形態も転換したりして、非常に積極的に参考になる事例だと思います。

では次に、皆さんから「やつもお話ししていただけたことの中で質問したら」ということがあります。モーターライター同士の間で意見交換をしていただきたいと思ひます。

物（繊維）専門商社で、「豊島株式会社（とよしまかふしきかいしゃ）」といつていひます。グローバルな会社で「ユーヨークとかヨーロッパの方とかでも展開しています。

ニンジンをほかの業者さんへ送つてパウダー状にしてから染めます。一〇キロの規格外ニンジンでTシャツを一〇〇枚染めることができます。あとはトマト、ネギ、ナス、カボチャで、三笠の野見山さんがミニトマトを担当されています。北海道から私は野見山さんの一人です。

大塚　一〇〇万円が必要な用途つていつのは何ですか？

中野　高木さん、「ニンジンの染め物」についてお話をあつたんですけど、これは専門の人に頼んだのですか？

高木　農業女子プロジェクトの中には去年から参画している愛知県の染め

高木　会社の役員の人たちにダイレクトに金額が分かるといつて、「この期間内にこれだけの金額が」「これだけ応援している人がいます」というのが見えやすいのがクラウドファンディングなんですね。私たちも、クラウドファンディング



高木智美さん

グに行くと、ギリギリになつてから聞かされたので、そのやりとりがうまく行つてしない、折り合ひがきちんとつかないまま発進してしまったという面もあります。

大塚さんはA社での「有機の売り上げが二%」ってことですが、やっぱり、二%が北海道の中でも上限なんですかね？

大 塚 青果「一ナ一全体の売上の有機の売上が二%というのが現状では上限なのでしようね。今までゼロだったものが一年で一・数%まで行ったので、さしあたり、多分二%が目標なんだろうと思つています。

A社には手を出さなどうつ話も聞かさ

れていたのに、じつじつやつてじるかといふと、三回か四回くらい、青果「一ナの全店のスタッフの人たちが、入れ代わり立ち代わりにやってきて、丸一日研修したんです。スーパーさんは視察することはたまにあるのですが、車二台でやってきて一日働くんですよ。バイヤーさんの部長もショッチャウ来るし、社長も来るしで、非常に誠意を見せてくれました。うちは皆さんが名前を聞いたことのあるようないろいろなスーパーと取引があるのでけれども、丸一日研修したスーパーは初めてだったので、「本気なんだなあ」と思ったのです。

内 田 基本的には役場主導です。農協としても観光客のマナーが一番問題になつていて、生産者も有名な木を切り倒したということもありました。農家としては観光客を受け入れがたことうつり状況ではないかと思います。

貞 広 美唄もそんなに見る場所もないですけれども、海外の人を呼んでサイクリングとかで観光に力を入れています。

市役所主導でやつてじるのですが、農家とのつながりとう部分ではまだできていません。今後マチの中などでどうしていつうつじののかどううつ氣がしてじります。

貞 広 内田さんに伺いたいのですが、美瑛といえば、農業に加えて観光のマチとういうイメージがあるのですが、農業と観光のつながりについては、役場が主導なのか、JAなのか、いかがでしようか。また、連携は取れてじるのですか。

黒 澤 お話を聞いていて思つたんですが、地域農研が以前、美瑛町農協の振興計画策定をお手伝いしたときには農協でも「観光を農業に結び付けるのは無理だ」と思つていただんです。それは農業サインか「言つたら「実利がない」とうつつか、「観光客はばーっと来てばーっと通

り過ぎて「へ」どころか、「あが帰る」ということだ。農業サイドは、びえいの特產品なりお土産なりを貰つてくれる、びえいの農産物をもつと手に入れたいと、じつ一ーズを掘り起しす、そういう価値を十分に見出せないでいた。それで、地域農研に協力してくれた大学の研究者も、「せっかくあれだけの人間が来るのに、農業としても少し上手く惹きつけるところ」を考えたりとか」と、振興計画の中には表だつては書き込まれなかつたけれども、そういう提言はかなりチムから農協にはしたんですね。

観光客が美瑛農業を見たときに「うわあ、すごいなあ、パツチワークみたいで綺麗だねえ」ということがあるけれども、そこで農業をやってくる人からしたら、パツチワークだって自分たちで意図して作つて居る訳ではなくて、傾斜地で悪戦苦闘しながら延々と農地を耕してきた結果が今ああこいつ具合になつて居るだけだといふ話で、「観光客のためにやつてい

るわけではなくよ」と。その辺りに意識のギャップといつものを感じています。役場は、交流人口や定住人口を増やすとか、農業振興だけではない要素もあって、いろいろな意味で役場・行政と、農協・経済団体との連携は必ずしもしつくりしなじと「ことあるんでしようつね。美瑛だけではなくて、美唄でもやつじつことがあるのかもしれませんね。ただ、美瑛選果のような直売・発信システムが機能するようになつて、美瑛の農畜産物や加工品を観光客が買つて帰るところの機会が増えてくると、農業者の人たちも、観光農業もまんざら悪くことではない。今は、そういう思考の転換期にあるかなと感じるんですけど。どうでしょり?

むし、国際化といつ面では、本道の農畜産物やその加工品をシンガポールや香港に売るところ販売の側面と、外国人の人々が北海道農業のために働いてもらつとか、研修を受け入れるとか、観光で来てもらひ

うとか、やつこいつの側面があると思うっています。そのことに關して、「わが農場との関わりでこいつのことを国際化に関わって考えてこむ」とこいつのがあつたり、お話ししていただきたいと思ひます。

宇野　いのちの牧場でも、去年から、

シンガポール、台湾、タイへ輸出しています。高島屋など高級百貨店のイベントでの販売をしています。牛乳なのでなかなか簡単ではないですが、今後長い目でみたときに海外といつ選択肢がなければ、国内だけでは先詰まりになるだらうとう考えを持つてやつてあります。

アジアでは、シンガポールは「厳しいなつてきてるなあ」とこいつのはすいへ感じてきました。タイでは一〇月から高島屋にも出店しますし、けつこいつまだ伸びしきがあると考えてこます。

僕としては輸出だけではなくて、できれば向こうに現地法人を作つて生産を開

始しようとこな」とも答えております。製造から始めて、後には牧場も現地で開始したじと探つておりまして、今、情報を集めているところです。少しづつは進めていきたいと思つています。



大塚早苗さん

大 塚 うちはまだ本格的な輸出をしたことはないんですが、JETROの関係で試験販売を何回かやったことがあります。干し芋とかミートマトとかを販売したのですが、あちらでは売値がだいたい一倍から三倍になつてしまつのです。そつなつてしまつと、いくらあつちの物価が高いとはいつてもなかなか現実的な価格じゃないし、特に青果物であれば鮮度保持も難しいのでどうな

だつたことはないんですが、JETROの関係で試験販売を何回かやつたことがあります。干し芋とかミートマトとかを販売したのですが、あちらでは売値がだいたい一倍から三倍になつてしまつのです。そつなつてしまつと、いくらあつちの物

価格じやないし、特に青果物であれば鮮度保持も難しいのでどうな

んだろうな

と。書類も

受け入れ会社、管理会社があつて、そこ

いろいろと大変だし、日本国内でも売り先に困つてゐる訳ではないので、国内の方がいいかなという気がしてゐるんです。たまたま今年、中国人の方から個人的に「香港に送つてください」という注文があつて、その会社の方が「ミートマト

がすぐ美味しいから来年三〇〇キロくらい買いたい」という話があつたりしますが、まだまだ海外のスーパーや百貨店に置くところのような段階にはならないと感じですね。

また、うちのスタッフには中国人が三

人います。三年か八ヶ月、どちらかを選択して来てもらつんですけども、一人が三年で、あと一人が八ヶ月です。今年初めてタイのエンマイの国立大学からインターナンシップで一人学生が来ました。タイの人は付き合いやすいというか、私個人としては楽しかったですね。

高木 私は農機具が大好きで、二ンドンと馬鈴しょのハーベスターの動画をインターネットにアップしたら、春にコロンビアの方から「見たい」ということで連絡が来まして、中国人のコーディネーター（兼通訳）の方を通して、九月にコロンビアから農園の五人兄弟が来ました。そこは四〇〇haぐらいやっていて、そのうち二〇〇haが一〇〇ha、イモが二

から派遣されるという形ですか？  
大塚 中国人を受け入れしていける、江別のISS北海道事業協同組合の口利用です。

〇〇どこの農園です。

一ハジンはなんと一〇〇人雇つて全部手取穫。収穫する機械を購入したいと来たんです。一〇〇人の中には子供もいて、農園の人たちが「さすがに子どもも収穫させるのはちょっと厳しい」ということで機械を見に来たのです。メーカーに行つて見積りも出してもらつたようです。動画を見て外国の方が来るなんて思つていなかつたのでびっくりしました。

黒澤 そういう意味では国際化と、高木農場はその斡旋といふか支援をしたという感じですね。

津島 野菜では、さまざまな品目や品種が増えてきています。当然農協でも集荷しているのですが、六次化に変わった人、直売をやってる人は確実に増えています。かといって全体の面積には実際に数字にカウントするほど変化はないんです。今、農協でも中期五カ年計

画を立ててゐるんですが、全ての作物、減らしていくものはないんです。小麦、てん菜、馬鈴しょ、小豆、大豆等もつと出してくれという要望があつて、例えば小麦でも、大手製パンメーカーが使うとなればもっと量がないと使いづらう話や小豆ももっと面積を作つて安定供給してくれないと買ひづらう話が出てるんです。

だから、現在の生産量を維持するか、もししくは上げるような状況でないと、なかなか国内市場に向けての安定供給ができない。加工業者に一回供給が途絶えるとすべて輸入に置き換わります。いつたん供給を減らすと、輸入品に変わつてしまつて国内シェアを取り戻すのが大変なわけです。こういう状況で、現状の生産量をもつと維持し上げていくというのが、実は意外に課題なのです。

みなさんのお話を聞いていて、僕が「ちょっと違うぞ」と言わなきゃならぬ。それは、六次化した人の特色として



津島 朗さん

僕のイメージは、生産量を維持するか、もしくは現状より下がつたところが言えるんじゃないかということです。また、生産現場も人手不足、農協選果場も人手不足で人材派遣を真剣にやりたいといつことで、今年六月にベトナムに視察に行つてきました。「E s u h a i (エスハイ)」という日本語学校です。三クラス四クラス見て、生徒さんとお話をしてきたんですが、「日本のような国になりたい」、「日本に研修に来て学んでベトナムを良い国にしたい」というのが主な

的で、実際に来るところは企業であったり加工場であつたりがほとんどです。四〇人いるうち、いや、一〇〇人いたとしても多分そろですけれど、実際に農家に行ぐ人つてこらは三人だつたんですよ。それで、三人とも畜産。実際に来ている人もほとんどが畜産です。ところが、畑作や野菜の収穫現場は、実は今も変わらぬ三Kの生産現場であるに違ひないと感じました。外国からの研修生が中国からベトナム、タイに変わつて、今までまでは最後にはアフリカ諸国に頼るしかないんです。

それを見越して、生産現場をもっと綺麗に、楽にといふことを進めなきゃいけないというのが、日本のやることじやないか。もつとコンピュータを入れるなり、先進的な機械を入れていくことが今後の日本の目指すところだと、といふような気がしたところでした。

黒澤 最初の指摘ですが、地域農研

が実施した六次産業化調査の中で、ずつ取り組んできた人が一番問題だと指摘しているのが、「生産基盤が弱くなつていい」、「生産基盤を維持しながら六次産業化に取り組む」ということがなかなか難しい」ということです。そこが大きな課題だというのが、地域農研の調査でも明らかになつてゐるんですね。だから、津島さんの仰るように、「六次産業化で付加価値を高める」という方向にだけいけば、肝心の「生産力」がウイークポイントになりかねないところ側面がご指摘のようにあるんじゃないかと思います。

それと、海外からの人の話ですが、この間、これも地域農研の仕事で佐呂間の「はまほる」という五〇〇ばかりの大きな法人に行つてきました。そこではベトナム人の女性の技能実習生が、我々が行つた時は三人、その後一人来て今は五人になつてゐるはずです。三年タイプの人たちで、手収穫の作業をやっていました。



黒澤不二男顧問

黒澤不二男顧問  
はりいろいろ問題があるかもしれません。ご指摘の通りですね。

まで可能になりましたが、五年という希望は出ていますかと社長さんに訊いたら、「五年はないでしょ、三年來ていた人は帰る」という答えでした。それは、必ずしも日本での労働報酬を自當てに来ているばかりではなくて、日本で研修をしたり働いたりするところ、が、ベトナムに帰つてから勤める時のスキルアップの証として使えるから、日本にはこれ以上来ないと。

そんな話をしていたので、津島さん

言つように、日本の農場で汗を流してやつてくれる人が、国際化という中で、人材供給の主要な源泉になり得るかとい

中野 民泊の話をしたんですけどそれでも、名寄市は台湾の方に市の職員として就職していただけて、その方が台湾に行つて修学旅行をコーディネートしています。

台湾は日本人が思つてゐる以上に親日的りしへて、台湾の教育の中にて、例えば日本の農業、農村の勉強をするところのが入つてゐるらしいんですね。日本人の修学旅行のような感じではなくて、教育旅行をするところのが組み込まれている。それを、「わざ」が受け止める側になるんですが、一〇人くらいで農村に来て、日本の農村文化や家庭環境にどう溶け込めらか、そんな方向に努力してゐる。台湾は七月、八月、九月がこちらに来られない時期りしこんなですね(※註)。そういうと五月か一二月ってなつかりやうんです。五月だと農業が一番忙しい時期に受け入れなければならない。かと言つて一二月になると、今度は雪で閉められちゃう。そういうと、じつやつてその子たちを受

け入れて、農的なことを教えていかなきやいかないか、ところのことが課題みたいですね。

\*註 台湾(中華民国)の学校の年度の区切  
りは「八月一日～翌年七月三一日」となつておひり、日本の「四月一日～翌年三月三一日」とは異なつてゐる。



中野康則さん

ただ、日本人が思う以上に、マイナス一〇〇とか、雪とか、環境だとかにプラスのものすぐい思い入れがあるんで、こんなことしかできないよと語つたじゃないで、向こうの人の目線になつて「もう少し何かできないかな」ところのことを考えて提供してあげるのがいいかなと思ひますね。

坂爪 ひとつだけ、A社との取引の話です。

A社にしても他の量販店にしてもそんなに変わらなつて思つてはいるのは、ダイレクトに取引をした時の取引条件が、「何を持っているか」によつて全然違つてはいるところのとです。後ほど「卸売市場流通は、今でも合理的・効率的なものなんだ」ところのことが前提の話をするんですけども、結局、特殊なもの以外は、市場から買つ方が安いんです。それは大手スーパーも体験的にわかつてはいることなつてはいる

ような、北海道の生活環境つじじつなんだつてじつよくな、そういうのを見てみたいところだと感じます。

黒澤 坂爪先生、これから講演いたくんですが、先生から市場、マーケティングに関わる問題で、個々のセイ

ターさんが先ほどからお話ししていただけて、何かありましたか。

坂爪 ひとつだけ、A社との取引の話です。

A社にしても他の量販店にしてもそんなに変わらなつて思つてはいるのは、ダイレクトに取引をした時の取引条件が、「何を持っているか」によつて全然違つてはいるところのとです。後ほど「卸売市場流通は、今でも合理的・効率的なものなんだ」ところのことが前提の話をするんですけども、結局、特殊なもの以外は、市場から買つ方が安いんです。それは大手スーパーも体験的にわかつてはいることなつてはいる

なのです。バイヤーが一日畑仕事をしていただといひのはちょっと驚きだったたんですが、そこまでしなくて、バイヤーが直接商談しなければならぬといひのはとても手間のかかるいとなので、畑仕事をまするといひのとは、売る側の方に何か魅力があるからやつてゐるんですね。魅力がなくて「ただ取引したい」といひと価格だけの話になつて、しかも市場で出すより低価格で出つて貰われるいとになります。

有機でやられてる野菜が魅力的で大手スーパーがどうしても独占的に欲しい商品だとこいつになれば、良じ取引条件を出せんじよ。喜んでやつてしまふと申うんである。

ですから、「氣を付けろ」つていふのも本当だし、「良いものを作



坂爪浩史教授

作つてこたり良い条件で買つてくれる」つてこいつのむ面方とも本物のことだといひのと、やつだけは言つたかつたんですね。

黒澤 ありがとのじやつこました。常々、我々が疑問に思つてゐるのとを、明快に答えてくださいましたね。

最後に、地域農研で今、こゑじらな調

査研究などの仕事をしていますが、「こいつのとをやつてほし」といひとがあつたり、注文として書つてただけれどと思ひます。

黒澤 ルハコツの必要性の理論付けを提案して欲しこと。

中野 僕は新規就農なんですかけれども、新規就農にはいろんな補助金や資金がありますよね。でも、最初にかかるお金はじきなり「何千万資金がありますよ」って言つても、新規就農の人は借りられないじんですよ。だから、そいつの研究をいかに広めるかとこいつあたりがどうなつてゐるのかとこいつとこいつに關心があります。実際の現場なり、やつこいつとい

書つてくれた方がいいなと思ひます。

だめな人つて一、二年だめにならんといひのと、やつだけは言つたかつたんですね。

でやめるつてこつ人はほとんぢにならんですよ。ハの一年やつたノウハウで何かやりたじつて僕も思つてゐるがいるんですけど、それを支援してほしこといひとを提案したじんです。

津島 農業とかそういう部分においては素晴らしいシンクタンクで、いろいろ研究されているんですねが、私は、実はこのモーターミーティングに呼ばれる以前は、この研究所に対する認識といひのはなかつたと思います。それでこのやつてこいる研究をいかに広めるかとこいつあたりがどうなつてゐるのかとこいつとこいつに關心があります。実際の現場なり、やつこいつとい

ねじりのり、漫透してじくか、じぶんにじこにじめいし力を入れてじくのがいいのかなじぶんにじます。

貞 広 このも送つて貰れる「地域と農業」を引き続き見せてもらいたいなと思つまわ。

黒 澤 中身じぶんはどりますか?

貞 広 わざと、欲して情報つてじづか、良い内容だなつて思つまわ。

大 塚 たまたまじの間、農水省の方とじ飯を食べる機会があつて、「青年就農資金が今、事業仕分けに遭つていて、そのあり方が問われてらる」とじつ話でした。身近でも、うちで研修していた人がもうつてじたりあるんですけれども、結構「あげつぱなし」になつてじて、その後の追跡があまりされてじない。ただあげただけで、「五年間もじつた後は農

業をやめぢや」みたいな、そんよつな現実が今ある中で、「やひこの風にやつてじせせじ」と思つ?...」じぶんの話をしたんですね。その時に私が言つたのは、五年間でその資金がなくてわちやんと食べてじけるように、最低、年に一回は経営を専門家にアドバイスつてもうじなり監視してじむのなりして、「わちやんと自立してじけるしくみ」を作つてほしづな、じぶんの話をしたんですね。

黒 澤 それは、地域農研の仕事の中かい、今までの就農の事例解析などかい、そつじつ行政に對する提言みたいなもの

を、色々なバリエーションでやつた方がいいのではないか、という具合に解釈してじこですか?

ね。  
僕は、その事例を作りたこと思つて、

今、放牧と搾乳ロボットの新じいシステムの牛舎を作つてじます。それが二ユージーランドでは二〇〇八年度から世界初じぶんのことで動じてじまして、今二ユージーランドに二軒と、オーストラリアで今年から一軒やつてじるはずなんです。放牧しながらミルクはロボット搾乳のみでじぶんのもので、人が関与するといひは装置の管理のみで、二ユージーランドの

何か新しじいチャレンジあるとあの助成が必要ではないかと思つます。

現在酪農で離農がすゞじ進んでじる一

宇 野 今の補助金の話ですが、経営を維持するためだけのものではなくて、



実際の事例では、一人で300頭搾乳しているんですね。「ニュージーランドは三分の一が四分の一の乳価ですから、日本でこれが実際に成り立てば、酪農はものすごく稼げる産業になると思うんです。その事例を、アジアで、なんとかチャレンジして確立したいなと取り組んでいます。

**黒澤** 地域農研でも「ニュージーランドへ調査に行くべきですかね（笑い）。

**内田** 研究内容を見ていると、美瑛にも関係する課題もやられてると思うので、私も見たことがないのですが、情報の共有をしていただけたりと思っているます。

**黒澤** はじ、ありがとのございました。

津島さんから、非常に厳しことづか  
「一生懸命やつこらぬみたうだけれど、  
みんな知つてゐるの？」つてこいつの意見が

寄せられました。これは地域農研として

は永遠の本質的課題だと思います。農協にも十分に伝わってこないところがあるから、むりに組合員のところまで届けてくるのかつてこつのは厳しことづかでしようか。我々の取り組みも別な視点じこつか、別なフォロー策が必要かなと考えるといろですが、ただその突破口としてモニター会議を是非役立てたいといつぱりに地域農研としては思つてこるとこりとでござります。

今日の論議のやりとりは、また是非、内部で十分消化をして活かすように、地域農研としては取り組みを強化するそつです。

それでは、モニター会議の第一次のディスカッションはこれで終わりたいと思ひます。どうもありがとうございました。

**伊藤** 一言御禮をさせていただきます。  
本日は貴重なご意見をいただきまし

おりがかったりました。

今だ意見を頂戴した、「研究成果物を  
じんじんアピールして下さい」ところ取り

組みは、内部的にも、会員の皆さんから  
「じんじんやるべから」といアドバイスもいただいております。ひとつある  
が二十九年度は、道新とかエエKとか、  
「おぐり王国」をやってらるエエことか

全道の放送局に「まあは見てねりおひ」  
と、「農業関連情報を提供しよう」と取

り組みだしました。皆さんからもアドバ  
イスをしていただきましたので、ひとつ取り  
組みを強化できるよつないと、また、  
お知恵をお借りしながらやりたうと思  
います。

また、先ほじ話題にもなつてきました  
けれども、作況も皆さん本当に頑張って  
いただけて、非常にこなあといつひと  
じげれています。道東の方では台風一八号  
の影響等々もあったよつて、ちょっと  
「お見舞」を申し上げなければならなか  
な」ところ思つもあつたんですけれども、

ひとつおれあせ一安らごのむじやくわ  
います。

皆さんから話を伺いましたし、それぞれ  
が前向きに、熱じ思ひで営農をされてい  
るんだな、といふことを改めて認識をさ  
せてもらひましたといふのもありますが、こ  
の後も継続して、皆さんの元気を全  
道にじんじん発信し続けてらきたうと思  
います。

本日は、じつめじ苦勞様にどうもまし  
た。